

## 祝 辞

本日ここに、東京理科大学を卒業、修了された皆さま、誠におめでとうございます。校友会理窓会を代表し、心からお祝い申し上げます。

私は今から半世紀以上前の1968年の卒業生ですが、伝統ある東京理科大学の卒業生になったことを誇りに、学位記授与式に出席したことを昨日のこのように覚えております。

当時の東京理科大学も、「実力主義」で甘さは許されず、特に実験や研究などのレポートまとめでは苦勞しましたが、その経験がその後の人生で大いに役にたちました。

皆さんはこれから、学生時代と違った厚く高い壁に何度もぶつかることがあると思いますが、その時に「心の拠り所」となるのが、この学び舎で学んだ自信と、指導していただいた恩師、共に学んだ学友です。

「科学には国境がないが、科学者には祖国がある」との言葉を残してくれた先人がおりますが、東京理科大学は皆さんの祖国であり、「心の故郷」となるでしょう。折りに触れ、教えを受けた先生や、ともに汗して学んだ友との学園生活を思い起こしてください。

皆さんは今日から卒業生の会である「理窓会」の会員になります。これまで22万人が卒業・修了し、世界中、日本国中で大活躍しています。

世代や業種・職種は違っても、同じ学び舎で学んだということは、それだけで親近感を覚えるものです。このことは卒業直後より、むしろ数年後、数十年後により強く感じられるでしょう。

この4年間は数々の制約を受け、大変な日々を過ごされたと思いますが、「人生、すべて塞翁が馬」です。目の前に起きたことに一喜一憂せず、感情的にならず、科学的に捉え、荒波を乗り越えてください。

神楽坂キャンパスの近代科学資料館に、大村智記念展示室があります。皆さんの大先輩である大村智先生は色紙に、「望みを捨てないものだけに道は開ける」と書かれています。

皆さん、それぞれお持ちの望みに向かって、努力され、将来に幸多からんことを祈り、お祝いの言葉といたします。本日は誠におめでとうございます。

2024年3月18日

東京理科大学校友会理窓会 会長 増淵忠行